入選

当たり前じゃない水の存在

黒部市立清明中学校　二年　稲留　心優

私たちが住む黒部市には古くから清水という湧き水があり、水にとても恵まれている。そのため、地域の人は飲み水にしたり、洗い物に使ったり、夏にはスイカを冷やしたりと生活の中にたくさん取り入れてきた。そうやって、私たちは水というものを当たり前だと思って使ってきた。しかし、私たちにとって当たり前の水が当たり前ではない人も多くいる。

「六億六千三百万」この数字は安全な水を飲むことができない世界の人々の人数を表している。つまり、世界中の約十分の一以上をはるかに超える人々が毎日、水不足に悩まされている。十分の一と聞いて意外に少ないと思った人もいるかもしれない。しかし、日本の人口の六倍もの人が安全な水を飲めず、苦しんでいると考えると、水を毎日、当たり前のように使えるのは、当たり前ではないのかもしれないと思う。調べてみると、世界には池や川、湖、整備されていない井戸の汚染された水に頼るしかない人がたくさんいて、遠い道を歩き続け、やっとたどり着いた水源も年間三十万人の命を奪う危険な水であるという厳しい現状があると知った。私は、歯磨きでドバドバ流す水も、お風呂で出し続けているシャワーも、こんな身近な行動のせいで水が欲しくても手に入らない人の分まで、当たり前のように使っていることに気づいた。改めて水を大切にしようと思うようになった。

しかし、「水不足」は外国だけでなく、日本でも起こっており、他人事にはできない身近な問題でもある。それは、能登半島地震による断水だ。黒部市に住む私も、能登半島地震では大きな揺れを体験した。幸いにも、水に恵まれているため、断水も起きず、生活にあまり支障は出なかった。しかし、同じ富山県でも断水が長期間続き、長い間つらい思いをしている人もたくさんいた。水が流せないため、トイレの回数も限られている地域もあるという現状がニュースで流れてきた。この時、私は自分にもできることはないかと考えるようになった。

私は、とても水に恵まれており、今まで水の大切さなど考えたこともなかった。また、今、水不足で困っている人のつらさも全て分かるわけではない。しかし、周りに水がある環境だからこそ、水の素晴らしさをよく知っている。私は、生活を豊かにしてくれる新鮮な水が全世界に行き届き、人々が笑顔になってほしいと思った。そのためには、できることを取り組んでいく必要があり、私たちにできることもたくさんあると思う。例えば、歯磨きの際の水の使い方だ。つい流しっぱなしにしてしまう水は、たったの三十秒で、およそ六リットル無駄にすることになる。だから、これから、歯磨きは、必要な水をコップに入れておくことを心掛け、節水していきたい。そして、実際に私も実践している方法がある。それは、トイレのレバーの大小を使い分けることだ。レバーの大と小では、一リットルほど違う。また、大のレバーで、水を何度も繰り返し出されると、とてもたくさんの水を無駄にすることになる。そのため、大と小を使い分けることは節水のために大切だと思う。

生活の中の些細な行動が節水に繋がり、世界中の笑顔に繋がる。これからは、この意識をさらに高め、今は水がある環境が当たり前ではない地域も、私たちの日頃の行動で、世界中に水があることが当たり前な環境をつくっていきたい。